

今井俊広●

咬合に関わる歯科医師にとって待望の本が発刊された。

日常臨床で、われわれは咬合と関わらざるを得ない。咬合調整の不備なクラウン1本の装着により、顎機能障害を起こす場合もある。咬合調整は、しっかりした指標をもってなされなければならないのである。

桑田正博先生は1960年代初頭の、日本ではダウエルピンさえ使用されていなかったところに渡米され、臨床応用に耐える金属焼付ポーセレンを世界ではじめて完成させた。世界ではじめてである。ナソロジー学派のDr. P. K. Thomas, 生理学派のDr. C. H. Schuyler など錚々たるドクターや大学から依頼を受け、1967年当時、桑田先生の経営していたラボでは1日に80～110本の金属焼付ポーセレンの製作をしていたそうである。それだけの本数ゆえに、装着したクラウンの追跡調査で得られた結果と検証のもとに提示された“咬合のあり方”には、臨床に即した実績と重みがある。

茂野啓示先生といえば「一から学ぶ歯周外科の手法」の書籍で、ペリオのエキスパートとしての名声が浸透している。製作する補綴物を含めた口腔内の健康維持のためには歯の支持組織の管理が不可欠という観点で執筆されたのが世に知られるところとなったが、実は補綴治療がご専門である。咬合に関する見識にも優れていることは、論文や対談などの記事でうかがえるところである。

そのお二人の共著とあって、本の企画の話をお聞きしてから、私自身も「実践 咬合調整テクニック」の発刊を待ち望んでいた。本書での、“クラウンブリッジや天然歯に与える咬合のあり方”は術者が与える咬合への指標となるであろう。“早期接触の除去を目的とした咬合調整”、“早期接触の除去と下顎偏心運動時の咬頭干渉除去を目的とした咬合調整”では、臨床の実際にどのような場面で、どのような必要があって咬合調整するのか、またどのようなべきなのかを明確に示されている。また、咬



『歯界展望』別冊

Practical Occlusal Adjustment and Function
実践 咬合調整テクニック

桑田正博・茂野啓示 編

A4判変型 128頁 定価5,775円(本体5,500円+税5%)

医歯薬出版株式会社刊

合調整のための準備、基本的知識と基本原則、そしてどのようなことを指針とするかなども組み込まれた、理論と実践の咬合調整では至れり尽くせりの本である。

咬合調整は必要でありながら書籍上で表現するとなると、ステップを踏みながらの撮影と模型での確認などのために大変煩雑となるため、このように詳しい実践写真での説明がなされることがなかった。Trim off (削る咬合調整)、Add on adjustment (足す咬合調整)を見極めていく手順など、これだけのステップの写真を撮り、書き示す労力は多大なものであったと思われる。

本書を参考に、実際の臨床で咬合調整する前に、手順をシミュレーションできる。歯科医師や歯科技工士にとって必須の参考書となる本であろう。

(いまいとしひろ 〒683-0853 鳥取県米子市両三柳2033 今井歯科クリニック Tel: 0859-31-8000)